



三菱ガス化学株式会社

平成 20 年 8 月 19 日

サウジアラビア超大型メタノールプラントの稼働開始について

三菱ガス化学株式会社（本社：東京都千代田区、社長：酒井和夫、以下「MGC」という）が主導する日本サウジアラビアメタノール株式会社（本社：東京都港区、社長：山崎慶重、以下「J SMC」という）とサウジアラビア基礎産業公社（本社：サウジアラビア、リヤド市、CEO：Mohamed H. Al-Mady、以下「SABIC」という）との折半出資によるメタノール生産合弁会社サウジアラビアメタノール社（本社：サウジアラビア、アル・ジュベール市、社長：Abdullah K. Al-Buainain、以下「AR-RAZI」）は、5基目となる超大型メタノールプラント（生産能力5000トン/日＝年産170万トン）を完工し、実生産を開始いたしました。

本プラントは、2005年6月より建設を開始し、本年3月予定通り完工、直ちに試運転を開始、5月に最初の製品を得て実生産運転に入りました。生産開始後3ヶ月が経過致しましたが、プラントは順調に運転を継続し、品質も保証値を満足していることから、既に当該製品の出荷を開始しております。

日産5000トンの生産能力は世界最大級であり、このクラスのメタノールプラントでは、世界で初めて順調な立ち上がり成功し、その生産プロセスである三菱ガス化学／三菱重工法（MGC／MHI法）の技術優位性を世界に示しました。

これにより、AR-RAZIは5基のプラント（いずれもMGC／MHI法）で年産500万トンの設備能力を持つことになり、単一のメタノール生産工場としては、世界最大規模となりました。また、この新プロセスにより原料天然ガスの原単位も向上いたしました。

なお、本増設に伴い、生産するメタノールの一部について、SABICの関連会社である **The Saudi Arabian Fertilizer Company 社(SAFCO)** から原料天然ガスの供給を受けて、受託生産を行う計画で、これによりAR-RAZIは、ほぼフル稼働となる予定です。

また、設備増強による増産分は、引き続きSABIC及びJ SMC／MGCでマーケティングを行ってまいります。メタノール市場は、世界的な景気減速の懸念はあるものの、中国においてDMEやガソリンブレンド等の燃料用途、オレフィン製造に需要が増加するなど、依然拡大していくものと考えており、本増産分はアジアを中心としてスムーズに市場に吸収されるものと予測しております。

<本件に関するお問合せ>

広報IR部 興石

TEL. 03-3283-5041